



編集・発行 湘南希望の郷
〒252-0825 藤沢市瀬郷 1003
TEL0466-48-4500

Index

- 希望通信400号達成 P1
- 希望通信の思い出 P2
- せせらぎ会・希望のバトン P3
- 行事予定・編集後記 P4

希望通信 400号達成

希望通信は湘南希望の郷が開所した昭和61年6月のその翌月に創刊し、この令和2年4月号で400号を達成しました。初代施設長 五十嵐光雄先生の「施設と各御家庭をむすぶ情報のパイプ役、そして消耗ではなく生産のバネとして機能するもの」との強い思いを持っての出發です。開所の6月の最初の1週間で9割の方がそして24日までに50人全員が入所され、もちろん職員さえも不慣れな中、こういった機関紙の重要性はわかっているにもかかわらず毎月お伝えする紙面を作成するのは大変な努力を要したのでは

ないかと察します。それでも、ご家族の皆さんに少しでも安心感をお持ちいただきたいとの一心での発行だと思つと当時の職員の情熱さえも感じずにはられません。

現在は印刷を刷新し、この情熱は受け継いでいきたいとの思いは変わらずに、と自負しつつ、グループでの作成をしております。お楽しみいただけるよう情報の収集に頑張っている次第です。今回は理事長初め、懐かしい元希望の郷職員・ご家族様に一言希望通信の思い出などをお話しいただきました。

発刊400号に寄せて

理事長 五十嵐紀子

「希望通信」発刊400号おめでとうございます。振り返れば「神奈川ワークショップ」が創設されて約10年、就労に来ておられた利用者で、進行性の障害を持っていた方が車の運転もしにくくなって、入所施設が欲しいとの要望がありました。当時神奈川県内には県立の緑風園しかなく、横浜市が「リバーサイド戸塚ホーム」を立ち上げたばかりの時だったので、早速、当事者の気持ちに寄り添う基本方針を貫いていた当法人が県域民間施設 身障療護施設第1号を建設しようとする事になりました。在宅福祉を推奨していた法人が入所施設の建設に踏み切ったのです。

そして、入所施設に入ってしまうと家族と疎遠になると考えた初代理事長を兼ねていた施設長 五十

嵐光男の声掛けで「希望通信」は誕生したのであります。発刊当初はガリ版刷りで、色彩もなく、手書きそのもので読みにくく、中身も只、状況報告で味気ないものでした。又、記事を募集しても家族からの記事は集らず、廃刊に追い込まれそうな時期もありました。それが今ではカラフルになり、活動状況を伝える写真が沢山載るようになり、読む人達を楽しませてくれています。毎月拝見するのが待ち遠しいように感じます。

400号とは希望の郷の33年余の歴史そのものです。これを一つの区切りとして、これからも大いに明るい情報の発信を継続してください。期待しています。



希望通信の 思い出

400号おめでとう

いそご地域活動ホームいぶき
加古川 昌子

希望通信400号おめでとうございます。希望通信に入職時のコメントを掲載した時のことを振り返ると、創刊から33年間毎月休まず発行されていたことは職員の皆さんのご尽力の賜物だと思います。

当時は白黒、イラストのみで少しさびしいものでしたが、作成に携わっていた諸先輩方は、入居者の皆さんに対して情報発信をすることで希望の郷での生活を楽しんでいただくよう尽力されていました。ご家族の皆さんに対しても「施設からの細やかな情報発信」の場となっていたと伺っています。今は紙面もカラー印刷や写真がふんだんに取り入れられたものになり拝読することが楽しみです。

今後も500号、1000号と楽しい情報を心待ちにしています。

希望通信 400号！おめでとうございます。

入居者家族 富樫 則子

30余年にわたり発行されてきたことは、まさに「継続は力なり」とお祝い申し上げます。写真入りの記事からは、希望の郷での暮らしの一端が垣間見られ、我が子の写真が掲載された時などは、とても嬉しく読ませていただいております。また、職員研修の記事などは、職員の皆様が単に介護するだけでなく”障害 “に向き合う姿が伝わり、大変心強く感じております。

これからも500号1000号と号を重ねられることをお祈り申し上げます。

希望通信に思う

生活担当 大貫美智子

「たそがれは 私のおい 落ち葉踏む」

これは、私が入職した当時の自治会長 遠藤吉二さんの俳句です。忘れられない作品の一つです。希望通信は、季節の行事や各種大会の結果、また入居者の皆さんの詩や俳句・想い等が掲載され、その時々湘南希望の郷の息遣いが聞こえてきます。アクティビティでは、朝のオリエンテーションで希望通信を紹介しますが、聞いてくださる皆さんの笑顔にいつも元氣と勇気を頂きました。毎号制作に携わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。

モノクロ時代の思い出。

在宅公益福祉部 溝淵崇

自分が担当させていただいていた時代の通信は白黒両面刷りの1枚モノでした。原稿もワープロ専用機で作成し、データはフロッピーディスクで保管していた筈です。一定の年代以上の人しかイメージできない昔ばなしのようです。スラスラと文章を綴ることが出来れば原稿集めも依頼された人も楽なのですが、そういうわけにはいかず、ウンウンうなっていました。まだ入稿の見通しが無く空白が目立つゲラの段階であるにも関わらず燦然と輝くコーナーがあり、それが今も続く入居者自治会による「せせらぎ会だより」でした。一般紙の社説やコラムのような品のある文章と共に、希望の郷周辺の風景が季節の移ろいを交えて一筆書きのようにさりとしたためられていて、目にする度に自分にはこういう風に郷の風景を感じる余裕がないなあとため息をついていました。

写真も豊富でカラーがふんだんに取り入れられてビジュアルに優れた現在の通信にあっても「せせらぎ会だより」には心に映える一コマが鮮やかに綴られ、輝き続けているのは現在もご覧の通りです。

せせらぎ会だより

400号おめでとうございます

2020年4月。希望通信刊行四百号記念の春を迎えました。花暦には、「梅は枝ぶりを愛でる花。桜は花を愛でるもの」と、記されている。

今年も例年通り、中庭の三本桜が満を持して爛漫と咲き誇っています。湘南希望の郷で、花見以外に省みられる事の少ない三本桜だが、開所以来34星霜の年輪を刻む、黒褐色のゴツゴツとした太い幹が、その歴史を雄弁に物語っています。

「散る桜のこるサクラも散る桜」。この文言が意味する所は、とかく日本の風土にあって、サクラの花の刹那に咲き散る見事な美学が、無常の世の申し子として愛されてきた経緯を物語っている。江戸時代にはじまる。庶民の「桜を見る会」だが、先の太平洋戦争の狂気の風に翻弄された不幸な一時期を除き、ささやかな庶

民の宴として親しまれて来た風物詩は、時代の娯楽性を加味して現代の花見文化へと昇華されてきたものと推察されます。

しかし、今年の春の風物詩は様相が一変。あの忌まわしい時代の影を思わせる、日本各地で軒並み中止や自粛が公表されている。皆様には、すでに周知の通り。中国・武漢で端を発した新型コロナウイルスの流行が世界中に感染拡大を続ける中、WHOも新型コロナウイルスの世界的パンデミックの警鐘を声高に叫び出した。(当初から、WHOの中国に対する初動対策の甘さが指摘されていた)。先進主要各国が非常事態宣言を打ち出し、世界の主要株式市場が同時に株価暴落のニュースを発信。ぐるりと地球を駆け巡った。今や、新型コロナウイルス対策を理由に経済対策に目の色を変えて躍起になっている裏で、経済大国の卑しい目論見を感じるのは、この非常事態のなせる技なのでしょう。

2020年4月。人類と見えざる敵(新型コロナウイルス)との戦いが正念場を迎えている。

文責.自治会(K.I)

家族部会より

新型コロナウイルス拡散防止のため、行事をはじめ打合せ等の集まりを中止いたしております。年度初めにあたりいろいろな行事等の企画など皆様のご意見をお聞かせいただく機会を持つことができませんが、施設と歩調を合わせ、一致協力しながら可動の日を待ちたいと思います。



ローリングバレーボール (RV) との出会い

藤沢サンライズ 村井 良行

藤沢北地域福祉部藤沢サンライズの村井良行です。私は光友会に入職した年が平成4年4月なので28年間光友会に在籍しています。初めの6年間はケアセンター、その後、湘南希望の郷に異動して11年間勤務しました。その間、色々経験させて頂きましたが、その中でもローリングバレーボール(以降はRV)との出会いについて書きたいと思います。希望の郷では以前より神奈川県の大大会に参加していたことは知っていました。先輩より誘われてRVの活動を始めるようになり、希望の郷の監督としても5年間務めさせて頂きました。活動を深める中、神奈川大会以外に東京大会が行われている事を知り、

希望の郷・地域の方と共に東京大会にも参加しました。神奈川大会は6名すべて床に座ってプレーをしますが、東京大会は後衛3名が立った状態でプレーをします。2年間参加して、初年度は3位、次の年はなんと優勝しました。その優勝した大会で私は絶不調。アタックをしても入らない。それでも仲間は私を信じてパスを出してくれました。最後、私がアタックをして優勝を決めた瞬間、みんなが喜ぶ姿に自然と涙が込み上げてきました。スポーツを通して大切な物を学びました。

今回は横浜のいぶきで活躍中の保科職員へバトンを繋ぎます。

光友会事業推進協議会2019年度

「成年後見制度勉強会PART.2 ~知っておきたい将来への備え~」

2月13日、障害のある方とご家族への『成年後見制度勉強会パート2』を開催しました。今回は昨年度の続編として、この制度の身近な相談先である藤沢市社会福祉協議会から2名の講師（ふじさわあんしんセンター古舘氏・コミュニティソーシャルワーカー伴氏）をお迎えし、より具体的に「今、何をすればよいか」についてお話を頂きました。

事前アンケートでは、やはり親の高齢化のために先々のことを今から考えたい、けれどこの制度は難しくてよくわからない！という声が多く聞かれました。

講演では様々な事例から、皆さんの心配事に応じていただきました。古舘氏からは当事者の目線から見た

「制度を使うタイミングやお金のこと等」、伴氏からは「コミュニティソーシャルワーカーはどんな相談も断りません！」という、とても具体的で前向きなお話を伺うことが出来ました。

この勉強会では今後も皆さんの気になるテーマを題材に企画していく予定です。一緒に勉強しながら、共に支え合いましょう。



献立委員会



全国の郷土料理を始めて4月で21県目になります。一口に郷土料理と言いますが、昔から伝わる料理もあれば、B級グルメの時もあります。意外にB級グルメは皆さん大好きなようで、反響はとても良いです。

3月は感染症の影響でお部屋で過ごされるが多かったことで、大好きなB級グルメで気分を変えていただこうと、福島県の「三春グルメンチ」と広島県の「広島焼」を提供しました。「三春グルメンチ」はみじん切りのピーマンが沢山入ったものです。大きなメンチ2個がお皿に盛られると、そのボリュームに驚いていましたし、「ピーマンの味がしても美味しかった」と素直な感想をお聞かせいただきました。

広島焼も、お好み焼きの濃厚なソース味を満足そうにもりもりと召し上がって、添えられたもみじ饅頭にも「広島焼」を感じていただけたようです。皆さんの笑顔が、夢中で召し上がる顔が私たちの励みに繋がると実感するところです。

◆4月の予定◆



健康課より

藤沢病院 石井Dr.来診 2日(木)

厚誠会歯科検診 7日(火) 14日(火) 21日(火) 28日(火)

御所見病院 安田Dr.来診 8日(水) 22日(水)

健康診断(職員) 15日(水)

健康診断(入居者) 22日(水)

行事

住民生活会議 30日(木)

編集後記

編集委員 頑張ってます！

現在の希望通信を編集しているメンバーは10名で、3グループに分けて活動をしています。毎回どんなことを載せたら皆さんが興味深くお読みいただけるか頭を悩ませておりますが、それでもご家族へお手紙を書くように、施設が、入居者の方々がどのようにイキイキと生活しているかをお届けしたいとの大きな思いを持って頑張っています。

